

# 社会情報学会(SSI) 研究活動委員会 定例研究会

共催：青山学院大学革新技术と社会共創研究所

## 「メディア社会学の現在」

### 【趣旨説明】

「メディア社会学」は、「メディアの社会学」と「メディア社会の学」という側面をもつ研究領域です。「メディア」は、「コミュニケーション」とともに、学術的にきわめて重要ですが、多様な専門領域が関わり、「メディア研究」、「コミュニケーション研究」という学際的領域が形成され、発展してきました。社会学においても、「メディアへの社会的アプローチ」「コミュニケーションへの社会的アプローチ」として、それぞれの学際研究領域において主要な役割を果たしていますが、社会学のサブディシプリンとしては、必ずしも明確な境界を持った独立した研究領域（Media Sociology, Sociology of Media, Communication Sociology, Sociology of Communication など）が構成されているとは言えません。Media Sociology について、積極的に議論を展開している Waisbord は、「メディア社会学」とは、「共通の問題、議論、研究の方向性をもつ統一された領域ではなく」、「ポストディシプリン (postdiscipline)」であると主張します。つまり、研究領域やディシプリンを越え、「メディア」の展開に触発されて、社会的諸理論に接合する関心が拡散、移り変わる領域であり、メディアに関する社会的問いであるということ以外には共通性をもたない複数の並列する学術的研究への包括的ラベルであると論じています<sup>1</sup>。

他方、日本においては、社会学部に「メディア社会学」が設置され、大学院においても、メディア社会学系の研究への関心が高まっていますが、ポストディシプリンの特性もあり、初学者にとって、一定の体系的理解を形成するに資する入門書が十分ではありません。そこで、メディア社会学に関係する研究者たちが集まり、初学者向けのテキストブックが編纂、上梓されました（井川充雄・木村忠正、2022、『入門 メディア社会学』ミネルヴァ書房）。

2010年代からのソーシャルメディアの社会への浸透とその影響を考えますと、メディア研究の重要性は一層高まっており、メディア社会学の果たす役割について、改めて考えることが重要だと認識します。

以上のような経緯から、この研究会では、『入門 メディア社会学』に寄稿した研究者たちから、メディア社会学の現在という観点で、それぞれの研究、関心について報告してもらい、研究、教育を含めた、メディア社会学の可能性と課題を考えて行きたいと存じます。

---

<sup>1</sup> Waisbord, S. (2016). Media Sociology. In *The International Encyclopedia of Communication Theory and Philosophy* (eds. K.B. Jensen, E.W. Rothenbuhler, J.D. Pooley and R.T. Craig). <https://doi.org/10.1002/9781118766804.wbiect161>

## 記

- 1 開催日時： 2023年3月6日（月）16時～18時
- 2 開催会場： Zoom オンライン（参加申込をされた皆さまに、電子メールにて、当日の Zoom に関する情報をご連絡いたします）

### 3 プログラム概要（予定）

- 井川充雄（立教大学） 「「メディア社会学」の系譜と課題」  
河島茂生（青山学院大学） 「メディアとしての先端テクノロジーと倫理形成」  
池上賢（拓殖大学） 「多様化するメディア社会学の調査法と教育実践を考える」  
木村忠正（立教大学） 「ソーシャルデータと質的研究」

4名の登壇者から、20～25分程度で報告を行い、その後、参加者の皆さまを含めたディスカッションを行いたいと思います。

### 4 参加申込方法

以下の Google Form に必要事項をご記入の上、お申込みください。申込の皆さまには、申込に記載いただいた電子メールアドレスに、開催3日前を目途として、当日の URL 等をお知らせいたします。

<https://forms.gle/LCucAHZEK1ZW7piB7>